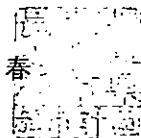


都第 56 号
平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長様

羽島市長 白木 義春



今後の道路行政についての意見・提案の提出依頼について

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号にてご依頼がありました標記について、別紙のとおり提出します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

1 道路整備財源の拡充

羽島市においては、道路特定財源は、道路整備のみならず、都市基盤整備の貴重かつ安定的な財源である。しかしながら、真に必要な基盤整備への投資でさえ、道路特定財源のみでは財源が不足し、不足分を一般財源や起債で補っているのが実情である。こうした状況の中、国において、道路特定財源を一般財源化することが決定されているが、不足している地方公共団体の道路整備財源を拡充する制度の確立を切望する。

2 人や物の動きに応じた道路整備財源の配分

少子高齢社会が到来し、人口減少に転じた我が国において、効率的な道路整備を進めるためには、重点的かつ集中的な投資が必要であり、今まで以上に、幹線道路や多くの利用が見込まれる道路への投資を優先すべきである。

3 適切な維持管理

軟弱地盤地帯に位置する羽島市においては、道路施設の定期的な更新が不可欠であり、計画的な維持補修とそのため財源確保が必要である。また、周囲を大河川に囲まれ、低平地の市域に網状の用排水路を有する本市にとっては、生命線である橋梁の耐震補強は急務である。

4 公共交通も含めた総合交通施策の推進・支援体制の確立

羽島市では、名神高速岐阜羽島インターチェンジと新幹線岐阜羽島駅が近接して立地し、近年の高速道路ネットワークの進展に伴い、新幹線と観光バスとの乗り継ぎ需要が高まっており、岐阜県の玄関口として、バスターミナル等の広域的な乗り継ぎ拠点施設の整備が必要となっている。しかしながら、整備の実現化に向けては、国、県、交通事業者ともに消極的な姿勢であり、今後、総合的な交通施策に対して、道路行政として積極的に支援していただきたい。

また、市内では、既に私鉄の一部が廃線となり、代替バスを運行している。しかしながら、その運行経路（主に県道）は、幅員狭小で車両のすれ違いも満足にできない状況である。道路行政の責任において、公共交通を支える路線の整備を進めてもらいたい。

今後の道路行政についての意見・提案

②－１地域の現状と抱える課題

様式②

岐阜県羽島市

○現状

- ・東西を木曽川及び長良川の大河川に囲まれた地形。
- ・インターチェンジや新幹線駅の重要交通拠点を有しながら、十分に活かしきれていない。

○課題

- ・東西幹線道路整備の遅れ。東西に繋がる幹線道路は(主)大垣－宮線のみで、明らかに不足している。
- ・市街地の基盤整備の促進。

②－２地域の目指すべき将来像

羽島市は、名神高速道路岐阜羽島インターチェンジと東海道新幹線岐阜羽島駅の２つの広域交通拠点を市街地中心部に近接して併せ持つとともに、木曾川、長良川に育まれた豊かな自然や歴史・文化資産を有している。今後は、こうした資源を最大限に活用するために市内の拠点整備を進め、さらに市外の拠点と連結した広域的なネットワークを発展させることにより、新たな交流が広がる魅力あるまちを目指す。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式④

岐阜県羽島市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	・都市基盤の整備 都市再生整備計画（岐阜羽島新都心地区） まちづくり交付金（岐阜羽島インター南部東地区地区計画道路 等） 土地区画整理事業（インター北、駅北本郷） ・幹線道路ネットワークの整備 （一）羽島稲沢線（新濃尾大橋） （一）大垣江南線（長良川新架橋）	・街区内の脆弱な生活道路を面的に整備し、良好な宅地を供給するとともに、物流業務や商業機能の集積を図る。名神高速羽島IC及び東海道新幹線岐阜羽島駅の立地を最大限に活用できる環境が整う。 ・木曽川、長良川の大河川で阻害されていた、隣接地域との飛躍的な交流連携促進。さらに、名古屋経済圏と、より緊密化。	